

我等が慈父大覺世尊は、人壽百歳の時中天竺に出現しまして、一切衆生のために一代聖教をとき給ふ。仏在世の一切衆生は過去の宿習有つて仏に縁あつかりしかば、すでに得道成りぬ。我が滅後の衆生をばいかんがせんとなげき給ひしかば、八万聖教を文字となして、一代聖教の中に小乗經をば迦葉尊者にゆづり、大乘經並びに法華經・涅槃等をば文殊師利菩薩にゆづり給ふ。但し八万聖教の肝心・法華經の眼目たる妙法蓮華經の五字をば迦葉・阿難等にもゆづり給はず、又文殊・普賢・觀音・彌勒・地藏・竜樹等の大菩薩にもさづけ給はず。此等の大菩薩等ののぞみ申せしかども仏ゆるし給はず。大地の底より上行菩薩と申せし老人を召しだして、多宝仏・十方の諸仏の御前にして、釈迦如来七宝の塔中にして、妙法蓮華經の五字を上行菩薩にゆづり給ふ。

其の故は我が滅後の一切衆生は皆我が子なり、いづれも平等に不便にをもうなり。しかれども医師の習ひ、病に随ひて薬をさづくる事なれば、我が滅後五百年が間は迦葉・阿難等に小乗經の薬をもつて一切衆生にあたへよ。次の五百年が間は文殊師利菩薩・彌勒菩薩・竜樹菩薩・天親菩薩等、華嚴經・大日經・般若經等の薬を一切衆生にさづけよ。我が滅後一千年すぎて像法の時には薬王菩薩・觀世音菩薩等、法華經の題目を除いて余の法門の薬を一切衆生にさづけよ。末法に入りなば迦葉・阿難等、文殊・彌勒菩薩等、薬王・觀音等のゆづられしところの小乗經・大乘經並びに法華經は、文字はありとも衆生の病の薬とはなるべからず。所謂病は重し薬はあさし。其の時上行菩薩出現して妙法蓮華經の五字を一閻浮提の一切衆生にさづくべし。其の時一切衆生此の菩薩をかたきとせん。所謂さるのいぬをみるがごとく、鬼神の人をあだむがごとく、過去の不輕菩薩の一切衆生にのりあだまれしのみならず、杖木瓦礫にせめられし、覺徳比丘が殺害に及ばれしがごとくなるべし。

其の時は迦葉・阿難等も或は靈山にかくれ、恒河に没し、彌勒・文殊等も或は兜率の内院に入り、或は香山に入らせ給ひ、觀世音菩薩は西方にかへり、普賢菩薩は東方にかへらせ給ふ。諸經は行ずる人はありとも、守護の人なければ利生あるべからず。諸仏の名号は唱ふるものありとも、天神これをかごすべからず。但小牛の母をはなれ、金鳥のたかにあへるがごとくなるべし。其の時十方世界の大神一閻浮提に充滿して四衆の身に入り、或は父母をがいし、或は兄弟等を失はん。殊に国中の智者げなる持戒げなる僧尼の心に此の鬼神入つて、国主並びに臣下をたばらかさん。此の時上行菩薩の御かびをかほりて法華經の題目南無妙法蓮華經の五字計りを一切衆生にさづけば、彼の四衆等並びに大僧等此の人をあだむ事、父母のかたき宿世のかたき朝敵・怨敵のごとくあだむべし。其の時大いなる天変あるべし。所謂日月蝕し、大いなる彗星天にわたり、大地震動して水上の輪のごとくなるべし。其の後は自界叛逆難と申して国主・兄弟並びに国

して日本国にたすくべき者一人もなし。たすからんとを^思もわしたまうならば、日本国の念仏者と禪と律僧等の頸を切つてゆいのはまにかくべし。それも今はすぎぬ。但し皆人のをもひて候は、日蓮をば念仏師と禪と律を^誦そしるとをもいて候。これは物のかずにてかずならず。真言宗と申す宗がうるわしき日本国の大なる呪咀の悪法なり。弘法大師と慈覚大師、此の事に^惑まどいて此の国を亡ぼさんとするなり。設ひ二年三年にやぶるべき国なりとも、真言師に^祈いのらする程ならば、一年半に此の国にせめらるべしと申しきかせ候ひき。

たすけんがために申すを^助此程^{これ}あだまるゝ事なれば、ゆりて候ひし時さどの国よりいかなる山中海辺にもまぎれ入るべかりしかども、此の事をいま一度平左衛門に申しきかせて、日本国にせめのこされん衆生をたすけんがためにのぼりて候ひき。又申しきかせ給ひし後はかまくらに有るべきならねば、足にまかせていでしほどに、便宜^{びんぎ}にて候ひしかば、設ひ各々はいと^厭わせ給ふとも、今一度はみたてまつらんと千度をもひしかども、心に心をたゝかいて^{駿河}すぎ候ひき。そのゆへはするがの国は守殿の御領、ことにふじなどは御家尼ごぜんの内の人々多し。故^{さいみょうじ}最明寺殿・極楽寺殿の御かたきといきどをらせ給ふなれば、きゝつけられれば各々の御なげきなるべしとをもひし心計りなり。いまにいたるまでも不便^思にをもひまいらせ候へば御返事までも申さず候ひき。この御房たちのゆきずりにも、あなかしこあなかしこ、ふじかじまのへんへ立ちよるべからずと申せども、いかゞ候らんとをぼつかなし。

ただし真言の事ぞ御不審にわたらせ給ひ候らん。いかにと法門は申すとも御心へあらん事かたし。但眼前の事をもて知ろしめせ。隱岐の法皇は人王八十二代、神武よりは二千余年、天照太神入りかわらせ給ひて人王とならせ給ふ。いかなる者かてきすべき上、欽明より隱岐の法皇にいたるまで漢土・百濟・新羅・高麗よりわたり来たる大法秘法を、叡山・東寺・園城・七寺並びに日本国にあがめをかれて候。此は皆国を守護し国主をまぼらんためなり。隱岐の法皇、世をかまくらにとられたる事を口をしとをぼして、叡山・東寺等の高僧等をかたらひて、義時が命を^{召捕}めしとれと行ぜしなり。此の事一年・二年ならず、数年^{じょうぶく}調伏せしに、権の大夫殿はゆめゆめしろしめさゞりしかば一法も行じ給はず、又行ずとも叶ふべしともをぼへずありしに、天子いくさにまけさせ給ひて、隱岐の国へ^遣つかはされさせ給ふ。日本国の王となる人は天照太神の御魂の入りかわらせ給ふ王なり。先生^{せんじょう}の十善戒の力といひ、いかでか国中の万民の中にはかたぶくべき。設ひ^失とがありとも、つみあるをやを^親失なき子のあだむにてこそ候ひぬらめ。設ひ親に重罪ありとも子の身として^失に行はん^親に天うけ給ふべしや。しかるに隱岐の法皇のはぢにあはせ給ひしはいかなる^{たいか}大禍ぞ。此ひとへに法華經の怨敵たる日本国の真言師をかたらはせ給ひしゆへなり。

一切の真言師は^{かんじょう}灌頂と申して^{はちよう}釈迦仏等を八葉の蓮華にかきて此を足にふみて秘事とするなり。かゝる不思議の者ども諸山諸寺の別当とあをぎてもてなすゆへに、^踏たみの手

にわたりて現身げんしんにはぢ恥にあひぬ。此の大悪法又かまくらに下りて御一門をすかし、日本国をほろぼさんとするなり。此の事最大事なりしかば弟子等にもかたらず、只偽いつはりをろか疎にて念仏と禅等計りをそしり誑てきかせしなり。今は又用ひられぬ事なれば、身命もおしまず弟子どもに申すなり。かう申せばいよいよ御不審あるべし。日蓮いかにいみじく尊くとも慈覚じかく・弘法こうぼうにすぐるべきか。この疑ひすべてはる晴べからず。いかにとかすべき。

但し皆人はにくみ候に、すこしも御信用のありし上、此までも御たづねの候は只今こん生計じょうばかりの御事にはよも候はじ。定んで過去のゆへか。御所労の大事にならせ給ひて候なる事あさましく候。但しつるぎはかたき剣のため、薬は病のため。阿闍世王は父をころし殺仏の敵あじゃせとなれり。悪瘡身に出でて後、仏に帰伏し法華經を持ちしかば、悪瘡も平癒へいゆし寿いのちをも四十年延のべたりき。而も法華經は「閻浮提人・病之良薬」とこそとかれて候へ。閻浮の内の人しかは病の身なり、法華經の薬あり、三事すでに相応しぬ、一身いかでかた助すからざるべき。但し御疑ひの御わたり候はんをば力及ばず。南無妙法蓮華經、南無妙法蓮華經。

七月十二日

日 蓮 花 押

進上 高橋入道殿御返事

覚乗房伯者はわき房誑に度々よませ聞てきこしめせ、きこしめせ。恐々。